

坂東会

坂東会
100周年
2021

知っておこう！坂東流 第6回「七代目の家元宣言」

明治6（1873）年に六代目三津五郎が28歳で早逝。明治39（1906）年に七代目が三津五郎を襲名するまで、家元不在の期間が長く続きました。いよいよ七代目が坂東流家元を継承するという知らせに、坂東を名乗る東京中のお師匠さんたちが集められます。場所は本郷座（現在の文京区本郷にあった劇場）の芝居茶屋「春の家」の2階。伝通院の師匠として広く知られていた三津江を筆頭に、三津江の弟子であった三筆・亀三郎・三浜（初代三津浜）、三芳、百次、百喜知、百加（三津寿齋）、勝美、小勝ら30名余りが揃い、「今日から私が坂東

流家元を継承するからよろしく頼む」という七代目のお言葉を聞きました。坂東の名前を名乗りながらそれぞれが独自に活動していた師匠たちは、こうして七代目の元に集まり、「坂東流」という一組織として歩みをとめることになったのです。

その後「坂東流舞踊研究会」を発足。日本橋俱樂部（当時日本橋浜町にあった）で3日間にわたって開催した第1回目の舞踊会は、会場に入り切れない見物客が騒ぎを起こすほど盛会だったそうです。そして舞踊会は毎年回を重ね、会の運営を通して団体としての結束も深まり、それが「坂東会」へとつながっていきます。

*昭和40年発行の坂東会報『三津寿齋回想記』からまとめました。



七代目『山帰り』 大正7年（1918）9月 市村座 国立劇場蔵

目次

家元あいさつ・家元情報……………	2～3
坂東会定時総会のご報告……………	4～5
東京チャリティー舞踊会のご報告とお知らせ…	6～7
研修会、講演会のご報告とお知らせ……	8～9
伝承 坂東流……………	10～11
行ってみよう！松森稲荷……………	12～13
100周年舞踊会……………	14
東京・京都ゆかた会のお知らせ……………	15



家元 坂東 巳之助

突然ですが、先日歌舞伎座の舞台において、あわや大怪我と言う事故に見舞われました。と言っても幸い軽傷で済みましたので、安心して読み進めて頂きたいと思えます。

何があったのかと言いますと、薙刀を用いた立ち廻りの最中に相手とのイキが合わず、薙刀の石突側で顔を横殴りにされてしまったのです。前述の通り結果としては軽傷で済んでいましたが、その時の衝撃は凄まじいものでした。何

しろぶつかったのとは反対側の薙刀の刃が折れてしまふほどだったのです。一瞬何が起きたのかわからず、次の瞬間には顔面の右側に激しい痛みを覚え、片方だけ開いた左目で舞台上に落ちていた薙刀の刃を確認、「ああ、怪我したな」という事だけは理解できました。しかしながら目の前に鏡があるわけでもなく、自分の顔がどんな状況なのかまでは確認のしようがありません。ひとまず相手の表情から出血などの見た目にわかる症状はないであろう事を察して、痛みと不安を堪えてなんとか幕まで乗り切ることができました。

その後すぐに病院へ行きました。しつこいようですが結果は軽傷だった訳ですが、診察を待っている間の気持ちはなんとも言いようのないものでした。痛みもさる事ながら、右目の視界には白い霧がかかったようになっていて、何か大きな怪我になっていたら：明

日からどうしよう：と様々なことを考えてしまいます。

その日の病院は非常に混雑していて、長い長い待ち時間の間ぐるぐると思考を巡らせている内に心に湧き上がったのは、後悔と反省でした。

幕まで乗り切った自分の意地と根性を褒めてやりたい気持ちもありましたが、それ以前に、もっと気をつけて、もっと丁寧に立ち廻りに臨んでいれば避けられない事故ではなかったのです。

互いに得物を持って闘いを演じるのですから、そこには常に危険が伴います。その事に対する恐怖は決して忘れてはいけないものの、多かれ少なかれその気持ちに欠けていたのですから、いずれ自分ではなく相手に怪我をさせてしまう可能性も大いにありました。

また、そうした身体的に余裕がなく、なおかつ慢心を湛えた立ち廻りは観ている人にも「嫌なドキドキ感」を与えてしまいます。その日の立ち廻りは事故抜きで見



秋のよき日
渋谷の金王八幡宮にてお宮参り



も酷いものだったと思います。
皆様も立ち廻りの含まれる演目
をお稽古されたり、ご披露される
折には、ご油断なさらず、怪我に

はくれぐれもご注意くださいま
せ。私自身もこの経験を忘れず、
より良い舞台を勤められるよう精
進してまいります。



定期総会にて
初めお目見得



初正月

家元情報

京都四條南座

新作歌舞伎

『NARUTOーナルトー』

6月2日(日)～26日(水)

映画

『東京喰種ートーキョーグール』【S】

7月19日(金)公開

新橋演舞場

12月新作歌舞伎

『風の谷のナウシカ』

出演決定

家元講習会

日時 9月9日(月)・10日(火)

演目 創作曲『河千鳥』

費用 2万5千円

(9日講習会後の懇親会費込み)

場所 東福寺塔頭正覚庵

京都府京都市東山本町15-808

関西地区以外の方もご参加
可能です。

お申込は事務局まで。

(定員40名先着順)





第46回定時会員総会のご報告 平成最後の定時総会を賑やかに開催しました

3月3日(日)あいにくの雨の中、帝国ホテル富士の間に於いて、出席者303名の会員による第46回定時総会そして懇親会を開催しました。

総会は会長の挨拶、物故された会員の方々への黙祷をささげた後、会長より坂東会が一年半後の2021年に100周年を迎えるにあたって一緒に坂東流を盛り立てていきましょうとの言葉をいただきました。

続いて企画部・広報部より30年度の事業報告、理事代表より今年度の事業計画(3月/台詞研修会、6月/役員による京都伏見稲荷大社松森大神の参拝及び京都南座『NARUTOーナルトー』の総見、7月/鳴物講演会、8月/第2回坂東流チャリティーゆかた会、12月/第56回坂東流チャリティー舞踊会)の発表がありました。また坂東会100周年記念事業として2020年9月12日(土)、13日(日)に100周年記念舞踊会を開催し、企画番組等を検討中である旨、及び100周年記念誌の制作委員として京弘女さん、勝規さん、三奈慧さん、映舞さんが就任したこと、報告がありました。各支部の活動としては4月に関東甲信支部の「大道具のお話し」、関西支部による「上方開催坂東流チャリティーゆかた会」の計画、最後に事務局から



新師範の方々



新名取の方々

30年度の決算報告、新名取14名、新師範8名の紹介があり、懇親会に移りました。

懇親会では最初に家元の挨拶として新作『NARUTOーナルトー』の京都公演のご紹介、続いて顧問弁護士清水直先生から「家元が年々ご立派になられ舞台でも花も実もある役者になられて先代家元の三津五郎さんもさぞかし目を細めて喜んでいらっしゃるだろう」とのお言葉、また「皆様方も朱熹の漢詩『少年老い易く学成り難し』の言葉を胸に一日一日を大切にして『雀百まで踊り忘れず』健康に気をつけて踊りを通じて生涯をお過ごしください」とご祝辞をいただきました。次にご来賓の近藤忠義先生より昨年の9月に家元の第一子のご誕生されたお祝

いと家元をはじめ本日ご出席の皆様方のご繁栄を祈念して乾杯のご発声をいただいた後、懇親会に入りました。

恒例の福引は利太郎理事の司会で、会長賞の訪問着、ことぶき賞の着物をはじめ、中啓、お扇子、傘、カセットテープレコーダーなどのお稽古道具、旅行券、商品券、デイズニールランドペアチケット、バッグや掃除機、ダイソンの扇風機など豪華賞品が次々と当選者到手渡されました。皆様、来年も是非総会にご参加くださいませ。

会長賞の訪問着は藤紫郎さんに「とても嬉しいです。来年は仕立てて着て参ります」とおっしゃっていました。



ことぶき賞の着物は香斗茂さんに。去年はラジカセが当選されたそうです。



師範になつて

坂東 真祥三

平成30年の試験で師範となりました。3歳から母の影響で日本舞踊を習い始め、今日まで至りました。これまで、普段お稽古をしていたでいる三津祥師匠をはじめ、母、祖母、先輩方多くの方に学び支えられてきました。今回師範となりましたが、まだまだ知らないことも多く、青年部での有意義な活動もあり、日々楽しく学ばせていただいています。

そして先月、息子が生まれ父となりました。父としてもまだまだ未熟な私ではございますが、たくさん学び、坂東流の大切な踊りをこれからもたくさんお稽古して、日々精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



新師範、そして新米ノババになった真祥三さん

坂東会総会に出席して

坂東 陽二郎

昨年「坂東陽二郎」のお名前を頂き、今回初めて総会に出席させていただきました

ました。

会場に一歩足を踏み入れると、そこはまるで別世界。300人以上の大先輩方が、会場をさらに華やかに彩り、坂東流一門のスケールの大きさを再認識致しました。新名取紹介で、壇上に立ったときは緊張しましたが、家元からご紹介していただきますと「さらに精進していかねければ」と強い覚悟のような感情が湧き出てくるのを感じました。

住まいはロサンゼルス。3ヶ月に1回は渡日し、三津二郎師匠からご指導を受け賜わってまいりました。『松の緑』の杖をつく場面では、師匠自らの杖を持たせていただき、細かいご指導をいただきました。

今、自分がここに立てるのは、三津二郎師匠をはじめ、大先輩方からの励まし、ロサンゼルスで応援してくださる方々、そして同じく日本舞踊に精進してきた母の応援があったからだと感じております。まだまだ未熟ではございますが、このご恩に報いるよう、さらに精進してまいりたいと思います。



ロサンゼルスから参加された陽二郎さん



東京チャリティー
舞踊会
のご報告

第55回坂東流チャリティー舞踊会を、平成30年12月15日(土)に浅草公会堂にて開催しました。当日は寒い中、開演の30分以上前から長い列ができ、たくさんのお客様にご来場を賜りました。家元の『卯の花』で幕が開き、企画番組『五人三番叟』、橋の会による『かしく道成寺』まで全22番。盛会のうち閉会することができました。

会場にてお客様にご協力いただき集まりました募金8万4920円は「読売光と愛の事業団」に寄付をさせていただきました。皆様の心温まるお気持ちに感謝いたします。



会場の様子

感謝しています

坂東紫寿昌

30代半ば、偶然の出会いから永紫先生の元で日本舞踊生活が始まりました。お稽古は毎回先生や先輩方が忍耐強く、愛情深く指導してくださいます。



紫寿昌

永紫沙

私にとって二度目の舞台となった今回、緊張したものの、勝友先生、永紫先生、永紫沙さんをはじめ皆さんのおかげで不安や心配などあまり感じずに出演することができました。頼りになるしつかりとした坂東会にお世話になることができて幸せです。本当にいつもありがとうございます。

五人サンバガールズの汗と涙の日々

坂東智和

この原稿を書いているのは3月。チャリティー舞踊会で『五人三番叟』を踊らせていたから、3カ月が経ちました。昨年6月、初顔合わせの日、振り付けの利太郎先生が私たち5人を西日暮里駅の改札口まで迎えに来てくださったのが懐かしく思い出されます。本番までの半年間、本当によくお稽古していただきました。利太郎先生、そしていつもテープをかけてくださった女太郎さん、本当にありがとうございました。『お腹が空くから』と女太郎さんが用意してくださったおにぎりの味は、今でも忘れられません。オー50代女子による三番叟、それも衣裳付きです。部活のようなお稽古に大汗をかきながら、「プログラムに年齢を書いてくれないかな」と、真面目に話したりしたものでした。惜しみない利太郎先

利太郎 喜美生 佳穂乃 智和
三奈慧 秀恵美

連続5回出場して

坂東加浦



この度は、チャリティー舞踊会に連続5回出演させていただいたことが、ありがとうございます。私は満4歳の6月に母に連れられて

生のご指導に加え幸せだったのは、勝友先生はじめ理事の先生方など、多くの先生方がお稽古を見に来てくださったことです。「もつと腰を入れて足をあげる」「三番叟の意味を考えて」など、さまざまな助言をいただき、大きな励みとなりました。『五人三番叟』がよい作品となるよう、皆さんがお心を寄せてくださったのが何よりうれしいことでした。昔の坂東流は人数も少なく、お稽古場に関係なくさまざまなお師匠さんがお声をかけてくださったと聞きます。「みんなで未熟な芸を育てていく」という土壌が、坂東流にはあるのだと実感しました。このような機会に恵まれましたこと、5人一同改めて心から感謝申し上げます。

チャリティー舞踊会に出演して

坂東啓

ご近所の弘英師匠のお稽古場に行きました。それから長い年月にわたり、弘英師匠に実の母のように接していただきました。近年は、弘英師匠の妹弟子の泰師匠にとっても親身に指導していただいています。まだまだ難しい振りも多く、わからない事につまずいてしまう私ですが、日本舞踊は好きですので、両師匠の芸に少しでも近づけるように精進していきたいと思います。

昨年暮れ、平成最後のチャリティー舞踊会に、坂東勝友先生振付による大和楽『かしく道成寺』に出演させていただきました。本行の「道成寺」から離れ、江戸吉原の人間模様を情緒豊かに描いた作品です。

気心の知れた「橋の会」の同人、波瑠加さん、永紫さん、勝彦さんという共演者を得て、熱心に稽古したことが良い思い出となっています。



勝彦 波瑠加 永紫 啓

第56回 坂東流チャリティー舞踊会

日時 12月3日(火)・午前11時開演
場所 浅草公会堂
主催 坂東会
入場料 5千円 1部2部入替なし

番 組		番 組	
第一部		第二部	
常磐津	子宝三番叟	長 唄	半田 稲荷
長 唄	浅 妻 船	長 唄	都 風 流
長 唄	君が代松竹梅	長 唄	江 戸 風 流
長 唄	島 千 歳	長 唄	助 六
長 唄	多 摩 川	長 唄	雨 四 郎
常磐津	藤 源 摩	清 元	保 祭 名
長 唄	金 娘	清 元	お 玉
長 唄	三 乃 智	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	喜 美 野	清 元	玉 祭
長 唄	三 千 踊	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	保 祭 名
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	お 玉
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉 祭
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	雨 四 郎
長 唄	三 知 弥 栄	清 元	玉

報告!!

「台詞研修会」を開催しました

3月24日(日)浅草見番にて勝友先生をお迎えしての台詞研修会を行いました。参加者88名、見番満員での賑やかな研修会となりました。

はじめに勝友先生から、「セリフは難しいと思わず、まずは声を出すことからやってみよう」とのお話があり、ひとりひとり声が出せるよう、前半後半の2グループに分け、1グループをさらに5名ずつに分けて行われました。

『文売り』からはじまり『年増』『吉野山』とご指導いただきました。上手く言うことよりも、その役になつて言うことが大切なのだと全ての演目の役柄や状況などを詳しくご説明くださいました。また、太郎冠者やお侍、町娘から禿まで同じセリフでも役柄が違うと言いかたも全く違うという実演を先生自ら、演じ分けしてくださいました。会場は驚きに包まれました。

最後の質疑応答では、「先生のお好きなセリフのものは？」との質問があり、

『源太』のセリフも披露していただき、充実した研修会となりました。

勝友先生、ありがとうございました。



報告!!

関東甲信支部企画 「大道具のお話し」を開催しました

4月6日(土)、満開の桜が咲く中、伝統芸能情報館にて関東甲信支部企画「大道具のお話し」の講演会を行いました。

参加者は会員80名一般22名と合計102名で、講師には狂言方として坂東流の舞踊会を数多く支えていただいております渡邊雅氏をお迎えいたしました。

『鶯娘』を題材に「幕が開いて大道具を見ただけでどんな場面なのか一目でわかるように状況の説明をするというのが大きな役目の一つです」と大道具の役目についてのお話から始まりました。続いて雪を降らせる、降り止ませるタイミングについて映像を使いながら説明いただき、大道具の職分について、各劇場によつての道具帳の違いについて、舞台面や舞台装置のお話を細かく伺いました。

実演では国立劇場舞台課の古谷勇人氏にお越しいただき、会主になった場合の打ち合わせの様子の実演と、『お染久松』『供奴』を題材に金井大道具株式会社の篠崎朋也氏にそれぞれの役で打ち分ける附打ちの実演をしていただきました。最後に普段入れない国立劇場地下の作業場を見学させていただきました。貴重な資料を見せていただきながらの大変充実した講演会となりました。



講演会情報

先着100名

舞台上で役立つ!! 第2弾

「鳴物講演会」



第2弾の今回は、講師に福原百七氏、柏要二郎氏の両先生方をお迎えして、鳴物・三味線のあれこれをお話していただきます。

坂東会会員でしたらどなたでも参加できます。ふるってご参加ください。

講師 囃子 福原 百七氏

三味線 柏 要二郎氏

日時 7月6日(土)

午後1時より

場所 伝統芸能情報館3階

レクチャー室

(千代田区亀町4-1 国立劇場隣)

会費 5千円

申込 FAXまたはハガキで坂東会事務所まで

(6月20日締切)

※先着100名

問い合わせ 坂東会事務所



講師・柏 要二郎

一般社団法人長唄協会会員 長唄柏流同門会常任理事 尾上菊五郎劇団音楽部

父は三代目柏伊三郎、叔父に十代目坂東三津五郎。5歳の時に今藤文子師に入門し6歳で初舞台。平成15年10月歌舞伎座にて柏誠一を名乗り歌舞伎座初出演。平成16年4月柏流同門会より柏要二郎の名を許される。平成27年歌舞伎専従の長唄三味線方となる。『棒しばり』歌舞伎本興行での立三味線を勤める。海外公演、メディアなどにも多数出演。



講師・福原 百七

東京藝術大学卒。四世寶山左衛門(六世福原百之助)に師事、91年四世福原百七の名を許される。国立劇場主催公演、歌舞伎、放送、文化庁事業、東京の夏音楽祭、サントリーホールガラ、日本舞踊協会公演などに出演。NHK大河ドラマ『武蔵』『功名が辻』にて指導と演奏、また『義経』、映画『レッドクリフ2』ではテーマ音楽に参加。作曲も手がける。



師範試験講習会 臨時開催

日時／7月7日(日) 1時～『北州』
3時～『藤娘』

場所／家元宅
締切日／6月末日

* 4月の講習会が大型連休と重なり、出席できない方がいらっしゃいましたので、臨時講習会をいたします。

「後見のお話」
ロサンゼルスにて開催決定!!

An Afternoon of Japanese Dance
Performance with Lecture /
Demonstration on the Koken(Stage Assistant)

2019年10月19日(土) 講師 坂東 利太郎

伝承 坂東流

第二回

一子相伝の道成寺

監修 坂東 寿子

伝承の経緯と逸話 後編

さて秘伝の巻物と共に七代目へと受け継がれた道成寺がいかにして八代目へと伝わったのか。八代目が博識な人であったことは誰もが知るところですが、12、13才の頃に七代目の土蔵の中の和本を手当たり次第読みあさっているうちに巻物一巻を見つけます。何だろうと思って読むと、それは三代目筆の道成寺の秘伝書でありました。「一子相伝」と書いてあったので、「これは大変なものを見てしまった。怒られ

大和屋の道成寺には秘伝書があった。

三代目が書き残し、お狂言師、坂東三津江に託され、七代目へと受け継がれた秘伝の道成寺。今号は七代目から十代目までをひもといいきます。

る」と、そっと元に戻し、黙っていたわけでありました。それから30年ほどたった戦後、八代目が七代目を京都に呼び一緒に暮らしていた折り、八代目が道成寺のお稽古をしていると、「俊ちゃん（八代目の呼び名）、それ、なんで知っているんだ」と七代目に言われます。八代目は冷や汗を流し、「お父さん、すいません。僕が12、13の頃、土蔵に入って秘伝の巻物を読んでしまいました」。その巻物は八代目が盗み見た4、5年後、関東大震災で焼失してしまつたので、「見といて良かったね」と七代目に言われたという逸話が残っています。八代目は生涯で一度きり、坂東流の会で踊っています。



八代目『京鹿子娘道成寺』
『言わでもの事』（八代目著）より

八代目が伝承したのは八代目三女の寿子先生でした。寿子先生が18の頃、藤舎呂船先生から自身のお囃子の会への出演の話を頂き、今藤長十郎先生、芳村伊十郎先生のタテで踊ることとな

りました。当時一番脂の乗ったお三方を地方に「せっかくだから大きいものをやった方がよいよ」と呂船先生の勧めもあり『道成寺』を出すことになりました。その際に八代目から「うちのを覚えておけ」と伝授されたそうです。道成寺の写真を七代目に見せたところ、「もつと可愛く。娘だよ。道成寺つてのは娘だから可愛くって良いんだよ」と言われたそうです。坂東流の道成寺はあくまで「娘」であるという口伝を七代目ご自身が伝えたかったのではないのでしょうか。

そして寿子先生から十代目へ。十代目が道成寺をかけたのは、昭和63年に行われた七代目、八代目追善の坂東会、平成19年に金沢の石川県立音楽堂邦楽ホール、そして平成20年12月の歌舞伎座本興行です。寿子先生が移したのは金沢で踊る前で、昭和63年の坂東会で踊った時は流儀の古参三津蔵師に学ぶところが多かったようです。道行『丸にい字』は七代目が踊った後、絶えており、昭和63年の追善の会で復活させました。振付は三津弥師です。平成20年、本興行で踊ることになった十代目は、歌舞伎座本興行で踊るということと、秘伝の巻物まであった家の芸であるという二重のプレッシャーがあったと述べています。実は十代目三津五郎



十代目『京鹿子娘道成寺』©松竹絢

十代目亡きあと、講習会の依頼を受けた寿子先生は、口伝道成寺を取り上

襲名時に「京鹿子」の話があったものの、立役中心の自分が踊るのはおこがましいとの思いから、『奴道成寺』にしたいきさつがあります。三代目、七代目、十代目共に一旦は辞退を申し出ていることに道成寺の重みを感じます。ご覧になられた方も多いと思いますが、十代目の道成寺も大変な高評価を得ました。「どこまでも古風で、おっとりとした振りから、娘の淡い恋心がおおい立つ様である。道行は常磐津で、季節の移ろいに重ねて、鐘にまつわる女の妄執をきつちりと踊り込む」「江戸の名人三代目三津五郎の女弟子三津江を経て、七代目に伝わった『娘道成寺』の確かな芸を、今そのひ孫によって眼前にできる我々は幸せだ」と評されました。

げました。「一子相伝」であるけれども、絶やしてはいけない、後世に伝えていかなければならない、との強い思いから、始めから終わりまで自ら三度も立って講習してくださいました。流祖三代目が秘伝書まで残し、「踊りの神様」七代目をして「坂東家の許しはすなわちこの『道成寺』だと承知しました」と言わしめた道成寺。二百余年もの歳月、確かに伝承されてきた重みを胸に踊り伝えていかなければなりません。

追記

さて、前号に引き続き調べる内、一つの疑問が出てきました。七代目が三津江から伝承された時期についてです。前号では、七代目が三津江から伝承されたのは初演の前年か前年と掲載いたしました。初演時はまだ三津江から伝承されていなかったのはいか、初演から数年後に伝承されたのではないか、ということ。明治41年9月、初演直前の『歌舞伎』第99号に「私の道成寺」と題した七代目の言葉が載っています。それによると「三津江さんの踊りの風も一度は研究した」と思っているのですが、(中略)舞台へ出る前には如何しても一度立って

貫って、古風な處を見出したいと考えて居るのですが、旨くさう行けば宜しいのです」とありますので、障子を立って切って2ヶ月にわたって伝授されたのは、その後のことではないかと考えられます。もっとも、三津江の道成寺が大間であることや、「恋の手習い」の口伝については聞き及んでいたようです。伝承から24年後の昭和7年、2度目の道成寺上演前の新聞で、三津江から伝承された経緯について述べた上で「90幾つかの三津江さんが舞台上で、すっかり教えてくれました」と語っています。七代目の初演時、三津江は87、88歳ですので、伝承は初演の数年後ということになります。七代目の初演を三津江が見たかは分かりませんが、何としても大和屋の道成寺を七代目に伝えなければとの使命感から伝承に至ったのではないかと考えられます。伝承から実に20年余り舞台に掛けられることになった道成寺…。と考えると2度目の道成寺上演前の新聞見出し「世の中に出る 永木の道成寺 傳通院の師匠三津江の恩」に至極納得がいくのです。

尚、これはあくまでも私見にとどまり、未だ研究の余地あるところです。その点をご了承いただき、ご意見をお寄せいただきたく存じます。

行ってみよう!

旧守田座ゆかりの 船森稲荷

今年の夏は京都で家元による座頭公演『NARUTOOーナルトー』が上演されます。また、上方初開催となる「坂東流チャリティーゆかた会」が開催されます。京都に行かれた折には、足を伸ばして旧守田座ゆかりの船森稲荷にお詣りされるのはいかがでしょうか。

船森稲荷は京都で人気の観光地のひとつである伏見稲荷大社の中にあります。

会報52号（平成4年3月3日発行）にて船森稲荷について九代目が初午の思ひ出のエピソードとして寄稿していました。改めて抜粋し紹介いたします。



三ノ峰（白菊さん）を管理するお茶屋「岡本」さんの店内に飾られている先代のサイン

お稲荷さんといえば、旧守田座に由縁のお稲荷さんについてちょっと触れておこう。

猿若町時代、守田座の地内に通称「船森稲荷」というお稲荷さんが祀られていたのだが、明治になって守田座が、猿若町から新富町に移るにつれて、そのお稲荷さんは猿若町に残るかたちになってしまった。そこで後年、七代目の祖父が赤坂に住むようになったのを機に、そのお稲荷さんを赤坂の家にお移しして、お祀りすることにしたのである。

そのお稲荷さんは、もとはといえば京都伏見の三の峰という高台にある白菊稲荷から勧請して、守田座で祀ることになったものらしく、いまも伏見三の峰の白菊さんの一画に、船森稲荷の御本体とされる石柱が鎮座ましましています。（中略）その船森稲荷の御本体というのが、うっかりしたら蹴つまづいて行き過ぎてしまいそうな、なんてこともない石くれで、その余りの素朴さにあきれもし、同時にほほえましくも思えたものである。

その白菊さんへの登りの途中に茶屋があって、その茶屋には坂東から寄進させて頂いたのれんが掛けられている。

会報52号（平成4年3月3日発行）より抜粋

京都の催し
です



● 新作歌舞伎

『NARUTOOーナルトー』

京都四條南座

6月2日(日)～26日(水)

● 上方開催

チャリティーゆかた会

7月31日(水)

※番組P15参照

【電車】をご利用の場合

・ JR奈良線 稲荷駅下車

徒歩直ぐ（京都駅より5分）

【市バス】をご利用の場合

・ 南5系統稲荷大社前下車

東へ徒歩7分

【自動車】をご利用の場合

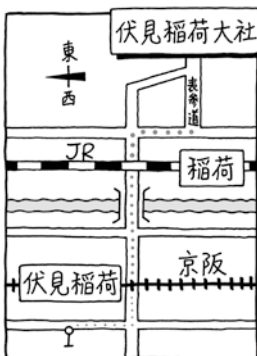
・ 名神高速道路

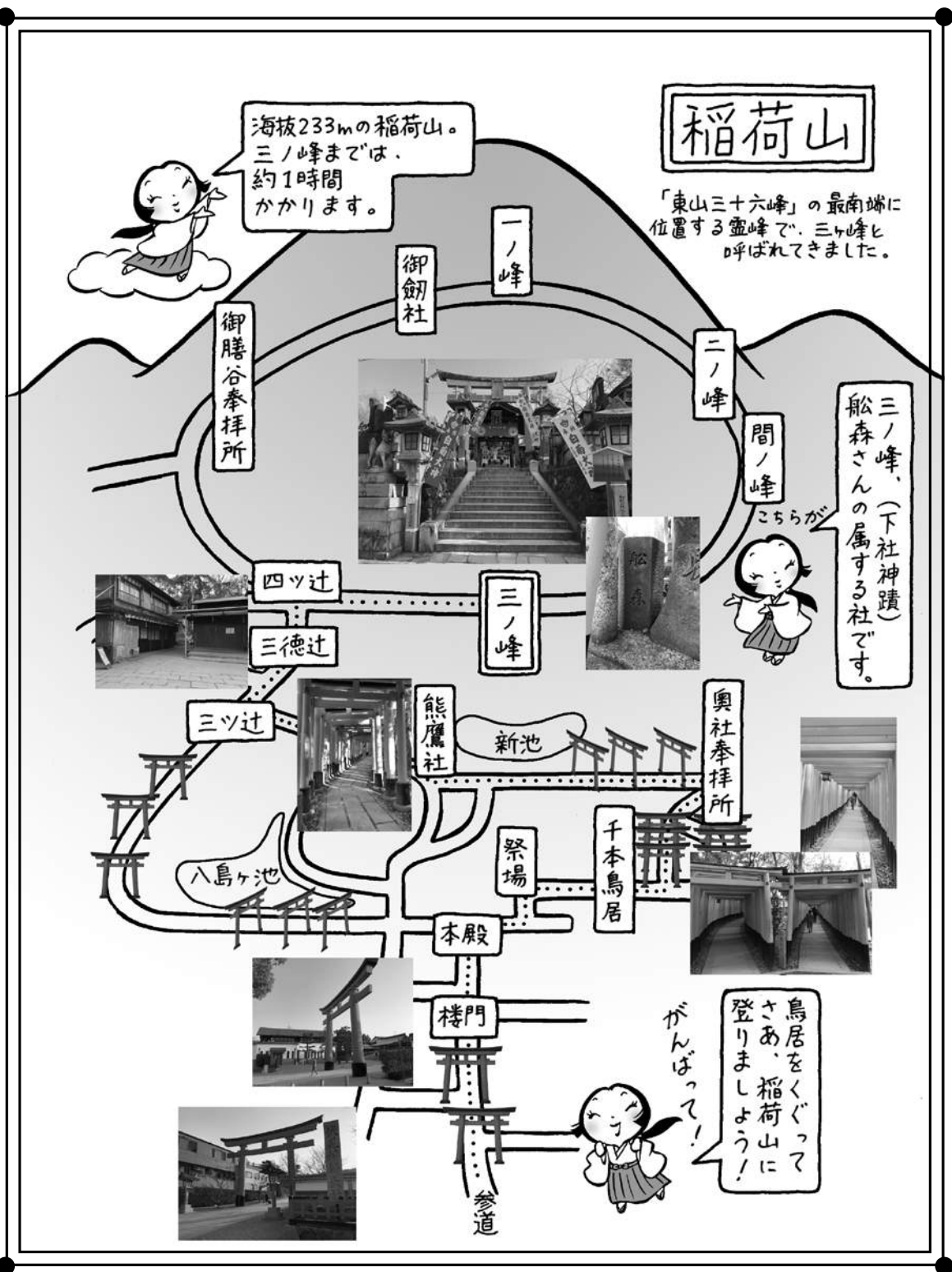
京都南インターから約20分

・ 阪神高速道路

上鳥羽出口から約10分

アクセスマップ





100周年記念舞踊会

2020年9月12日(土)・13日(日) 決定!!



九代目『お祭り』



七代目『奴道成寺』



八代目『狸々』



当代家元『供奴』



十代目『流星』

坂東会

100

周年
2021

2日間にわたり国立劇場大劇場にて開催されます。
詳細、番組は次号発表予定!!

写真:会報バックナンバーより

舞踊会のお知らせ

お知らせ

・橋の会

日時 5月5日(日)・午後1時開演
主催 橋の会
会場 日本橋公会堂
入場料 4千円

・之和会(同門会)

日時 5月19日(日)・11時開演
主催 坂東三世代
坂東久三之助
坂東華風
会場 日本橋公会堂
入場料 無料

会場 日本橋公会堂
入場料 無料

・坂東寛二郎 坂東寛十胤 リサイタル

日時 10月22日(祝)
第1部 午後1時開演
第2部 午後5時開演
主催 坂東寛二郎
会場 日本橋公会堂
入場料 3千円

・ひばりの会

日時 10月26日(土)・正午開演
主催 坂東草雲雀
会場 富士市ロゼシアター 中ホール
入場料 無料

新名取ご紹介

●平成31年3月までの合格者の方々

名取番号 芸名 本 名 取立師匠

M-83	菊 花	広 松	菊 友 太
M-84	香 寿 舞	岩 立 乃 衣 友 女 香 寿	
M-85	由 樺 章	澤 部 ゆ み 仙 章	
M-86	悠 都 姫	小 林 瑞 姫 仙 章	
M-87	賢 志 朗	杉 山 瑞 賢 仙 章	
M-88	光 乃 華	高 久 光 留 ソ フ ィ ア 春 志 乃	
M-89	菊 花	今 井 さ く ら 小 菊	
M-90	菊 花	舟 岡 ひ ろ み 扇 菊	
M-91	花 友 以	飯 野 千 尋 以 津 緒	
M-92	巴	富 田 頌 温 子	
M-93	鈴 代	石 井 雄 大 鈴 鈴 富 子	
M-94	鈴 朱 鷺	船 戸 藍 子 鈴 鈴 富 子	
M-95	大 吉	芦 野 由 美 子 若 梢	
M-96	草 麗 花	森 麗 子 草 雲 雀	

師範名取ご紹介

●平成31年3月までの合格者の方々

名取番号 芸名 名取番号 芸名

10-573	勝 雅 音	M-3	映 希 緒
10-712	扇 月	M-4	映 希 緒
10-903	以 紗 緒	M-56	青 桜

結婚おめでとうございます

10-559 伊 十 寿 10-856 裕 崑 弥
10-587 虎 裕 記

お悔やみ申し上げます

平成二八年六月	坂 東 吉 扇
平成三十年八月六日	坂 東 寛 珠 玲
平成三十年八月十四日	坂 東 百 次
平成三十年十一月十一日	坂 東 三 代 昌
平成三十年十一月十一日	坂 東 千 代 次
平成三十年十二月十二日	坂 東 梅 千 衛
平成三一年一月十三日	坂 東 涼
平成三一年三月三日	坂 東 弘 三 郎
平成三一年三月八日	坂 東 寿 三 代
平成三一年三月二三日	坂 東 文 玲 奈
平成三一年四月八日	坂 東 和 千 代

名取・師範試験 申し込みについて

試験日／9月1日(日)
申し込み締め切り／7月末日
申込書を事務所に提出してください。

臨時開催!!
師範試験課目講習
7月7日(日)
北 州 1時～
藤 娘 3時～
詳細は9ページをご覧ください

●富士・さくら、修得証書
発行の申し込みについて
申込書の提出締め切り
2月10日・6月10日・10月10日

坂東会会費 納入のお願い

同封いたしました郵便局払込票にて、会費を7月末までにお納めいただきますよう、よろしく願いいたします。

●師範会員 12,000円
●一般会員 6,000円

ホームページに掲載 登録いただいている皆様へ

今年度の掲載料のお振り込みをお願いいたします。(2019年7月末まで)

●お稽古場紹介

掲載料／6,000円(1年間)
掲載期間／年度末(3月末)まで

●お稽古場訪問

掲載料／5,400円(1回)
掲載期間／約1カ月

振込先／三井住友銀行神田駅前支店
普通口座 1807389

口座名義／坂東会ホームページ

※振り込みは「芸名」でお願いします。

お詫び

2月末発行の坂東会会報号外に掲載しました坂東会事務所の電話番号に誤りがございました。ここに深くお詫び申し上げます。

坂 東 会 第一二一号

令和元年五月一日 発行

編集発行人 坂 東 会 広 報 部

発行 所 坂 東 会 事 務 所

〒101-0047 千代田区内神田1丁目18-11

東京ロイヤルプラザ301号

TEL (03) 351-8821

FAX (03) 351-8821

mail: bandokai@crux.ocn.ne.jp